

(様式第 2 号)

パブリックコメント実施結果

件 名 宍粟市過疎地域持続的発展計画案に関するパブリックコメント
担当課

意見の募集期間 令和 3 年 6 月 16 日から平成 3 年 7 月 15 日まで
意見提出者数 2 人 (郵送及び F A X)
意見提出件数 7 件

意見の概要と市の考え方

反映区分

A : 計画等に反映させるもの	0 件
B : 計画等に反映済みのもの	0 件
C : 今後の参考とするもの	0 件
D : 計画等に反映できないもの	2 件
E : その他の感想や質問など	5 件

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
1	生活基盤の確保について 市内全域のバス路線網は二十年、三十年と残していつてほしい。買い物や病院への移動手段の確保が目的であるが、バスだけでは不十分であるように思う。特に市内北部においては1週間に1日しか走らない路線もあり、その日を逃せば1週間、買い物にも行けないこととなる。 さらに高齢化が進む中で高齢者がいつでも自由に買い物ができるように空き店舗や空き家を活用して各集落にお店を復活させてはどうか。市が一括で仕入れをし、大規模店舗とも価格競争できるようにし、各集落の店舗に配送することで、市内どこで買っても同価格となるようにしては。既存店舗も含めて参加いただくことで、市全体で生活基盤を確保してはどうか。	ご意見のとおり、買い物や病院への移動手段の確保を主たる目的として、バス路線の再編を平成 27 年度に行っています。しかしながら、便数の少ない路線、1 便あたりの利用者が少ない路線の今後のあり方については課題として捉えており、他の移動手段も含めて持続可能な仕組みの構築に向けた検討を進めています。 また、宍粟市においては買い物等ができる店舗についてはご指摘のとおり減少しており、市では、人口減少対策として、各町域を1つの生活圏と位置付け、生活圏の拠点づくりを進めているところです。市が直接買い物施設を運営することは難しく、市民の方や地域において買い物等ができる施設の整備及び運営を支援することとしており、波賀町域では、地域が運営する「にこにこマート」が開店しているところです。ご提案の市による一括仕入れは生活必需品商業組合など各事業者による創意工夫により事業活動が行われており、主体を市に変更しての取組で大規模店舗と同様にできるかは難しいものと考えられますが、地域における活動について引き続き支援していきたいと考えております。	D
2	集落内の店舗の役割について 集落に店舗があれば店舗がコミュニケーションの場となる。店舗でのコミュニケーションを通じて集落の帰属意識が育まれる。コミュニケーションが育まれれば行政との連携や治安の維持にもつながる。子どももコミュニケーション能力を育むことができ、店舗は交流の場、教育の場、情報共有の	上述しましたとおり、地域における賑わいの創出を第一の目的とした生活圏の拠点づくりや地域主体のまちづくりに取り組んでいるところです。生活圏の拠点づくりでは、各集落とまではいきませんが、市民協働センターを核として、あらゆる世代が交流できる施設づくり、また、人づくりに取り組んでおり、一宮町域で	E

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
	場、安否確認や治安維持機能も有する重要な役割を担う可能性があると思うがどうか。	は、まほろばの湯や家原遺跡公園を核とした地域主体によるコミュニティ拠点の再構築にも取り組んでいます。地域主体のまちづくりでは、学校区単位の地域づくり及びコミュニティづくりのための集落支援員や地域再生協働員の配置による自主自立のまちづくりに取り組んでいます。また、地域におけるコミュニケーションの場は、地域内の繋がり確保のために非常に重要であり、高齢者がいきいきと暮らすことができるよう、いきいき百歳体操などの取組を支援する「通いの場づくり」にも取り組んでいます。さらに、学校においては地域の方の協力のもと、「こども110番の家」や「見守り隊」などにも取り組んでおり、また、要支援者の方の見守りや災害時における避難等については民生委員・児童委員の方にもご協力をいただいているところです。子どもたちや高齢者などあらゆる方が安心して暮らすことができるよう取り組んでいきたいと考えております。	
3	新病院建設について 新病院は、心筋梗塞や脳梗塞などの病気にも対応できる多機能を備えた病院になることを期待しており、中核病院の機能を果たすような新病院であってほしい。医療施設が充実していれば移住者へのアピールポイントになる。	現在の西播磨地域における医療提供体制では、一つの病院ですべての診療機能を受け持つことは不可能であり、特に、脳外科など高度専門の医療については、患者数や手術件数が一定以上必要なことから、関係医師の確保が著しく困難な状況にあります。今後においても、中播磨地域の高度専門医療機関との連携強化により対応していきたいと考えております。 また、新病院は、播磨姫路圏域北部の中核的な病院として、また市民に身近な病院として、市内医療機関や医師会と連携しながら	E

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
		ら、救急医療から回復期医療、小児・周産期医療、在宅医療などを提供していくことで、地域包括ケアシステムの基幹病院等の役割を果たしていきたいと考えております。	
4	教育について 実際の体験や作業を通じて「確かな学力」や「健やかな体」づくりが必要である。現在も体験等に取り組んでいると思うが、生産から流通までの全体を体験しなければ「確かな学力」や「生きる力」の定着を望むことができない。義務教育の中では難しいので、公立宍粟学校のようなすべてを学ぶことができる学校を作ってはどうか。宍粟ならではの教育、施策を期待する。	宍粟市では、宍粟の森林探検隊や環境体験事業、自然学校、トライやるウィーク、トライやるアクション、また、林業体験、木工ワークショップなどの「木育の推進」、さらにはキャリア教育にも取り組んでいるところです。ご指摘のとおり、すべての工程を体験することは難しいと考えており、市独自での学校運営も財政運営上厳しいため、学校の特色を生かす「しそう学校生き生きプロジェクト事業」、ALTやイングリッシュコーディネーターを活用した英語授業の充実、運動への関心を高め健やかな体の育成をめざす「しーたんチャレンジ」、地域の方と学校づくりを考えるコミュニティスクールの推進などに、幅広く宍粟ならではの教育に取り組んでいきたいと考えます。 また、兵庫県における取組として、県立山の学校や森林大学校の運営などがあり、特に森林大学校については林業を専門的に学ぶことができる県内唯一の大学校として市が誘致しており、市としましてもシェアハウスの整備など学生の住居を確保しているところであり、県と市が連携し役割分担の中で取り組んでいきたいと考えております。	D

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
5	意識改革の必要性 市民自身が宍粟での暮らしに幸せや喜びを感じる事が重要で、市民の意識改革が必要である。笑顔があふれる人がいればそのことがまちの魅力となる。市民として課題解決に協力していきたい。	ご指摘のとおり、市民一人ひとりがふるさとである宍粟市に誇りと愛着をもって暮らすことで、そのことがまちの魅力になると考えています。子どもから高齢者までのあらゆる世代が、「このまちに住んでよかった」と感じていただけるよう、子育て支援、就学前教育の充実、学校教育の充実、雇用の場の創出、健康づくりの推進、生涯学習の推進など総合的に取り組み、宍粟市の森林を生かし、ふるさとへの愛着の醸成に取り組んでいきたいと考えております。	E
6	町域ごとに権限と予算を投じて、それぞれ自主性・特徴ある地域づくりを進めるべきである。町域が広い一宮などは南部と北部に分けて取り組むことが良いと考える。	町域ごとの予算配分は難しいと考えますが、市では、人口減少対策として、各町域を1つの生活圏と位置付け、生活圏の拠点づくりを進めているところです。生活圏の拠点づくりでは、市民協働センターを核として、あらゆる世代が交流できる施設づくり、また、人づくりに取り組んでおり、各町域において地域主体のまちづくりに取り組んでいます。また、市では概ね小学校区を単位とし、多様な住民や団体が参画・連携する協働のまちづくりを推進しています。モデル地区の千種及び繁盛地区では、地区の活動を下支えするコミュニティ支援員を配置し、単位自治会だけでは取り組むことが難しい地区課題の解決に向けた話し合いを進めながら、取り組めることから実践いただいているところです。市では、これらの地区活動への人的・財政的支援を行っていますが、他の地域でも自発的に進められるよう、新たな支援の仕組みについての検討を進めているところです。	E

番号	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映区分
7	小水力発電事業など、内容によって市職員が実務を担うべきである。	小水力発電事業については、各地域において資源を活用した地域経済の活性化として取り組まれており、市としても地域活性化及び再生可能エネルギー利活用の観点から支援しているところです。まずは地域内での話し合いや協議のうえ、行政として支援できること及び支援する必要があることについて、地域と協議する中で検討していく必要があると考えており、地域による自主自立のまちづくりを推進していきたいと考えております。	E